

まちづくり活動助成「まち“夢”工事」部門
第1次工事提案書

<p>団 体 名</p>	<p>なるこ 鳴子きずなの会</p>
<p>工 事 提 案 名</p>	<p>なるこ はなさ じぎょう 鳴子きずなの花咲か事業 ～対話を育む“みんなのお庭”づくり～</p>
<p>工事をを行う場所 (町名までご記入下さい。)</p>	<p>緑 区 鳴 子 町・丁目</p>
<p>工事をを行う場所の地図 (周辺の地図を貼り付けて下さい。)</p>	<p>野並車庫前 鳴子北 地下鉄桜通線 1丁目</p> <p>セブンイレブン 地下鉄駅周辺でも花壇づくりを実施中</p> <p>鳴子北口 藤川</p> <p>新たな民間分譲マンション計150戸</p> <p>UR都市機構 鳴子団地41号棟</p> <p>UR都市機構 鳴子団地43号棟</p> <p>市立鳴子小学校</p> <p>隣接する鳴子小学校との連携を図るべく小学校と協議中</p> <p>UR都市機構 鳴子団地61号棟</p> <p>市立鳴子 名古屋</p> <p>UR都市機構 鳴子団地33号棟</p> <p>記念植樹や花壇作りを試行的に実施済</p> <p>花咲かボランティアによる「鳴子きずなの花園」づくりを實踐中 (名古屋都市センターまちづくり活動助成を活用)</p>

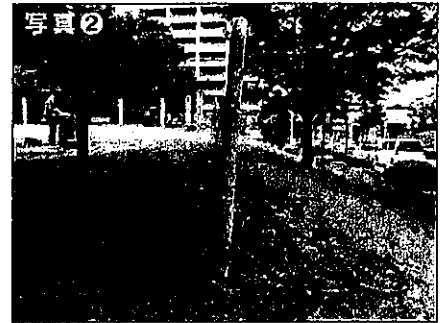
工事提案の

具体的な内容

工事を行う現地状況を写真などで表現するほか、具体的な工事の内容を文章や絵で表現して下さい。

1. 鳴子中央公園に「鳴子きずなの花園（コミュニティガーデン）」建設（鳴子コミュニティセンター入口付近、地下鉄駅周辺含む）

①**背景・現況**：学区の中央に位置し、朝のラジオ体操をはじめ、様々な地域行事の会場として公園やコミセンを多くの学区民が利用する。しかし、現状では殺風景なイメージ（写真①・②）が強く、あまり潤いや温かみを感じられない。花植えも進めているが、まだ線・面になっておらず、住民のシンボリック空間になりえていない。



②**工事内容**：学区のコミュニティガーデンとして、通路やフェンスのそば、樹木の足元などに花壇を作り、地域のボランティアや周辺の新住民などが気軽に花作りを楽しめる花壇を設置する。

③**地域の役割**：基礎部分の工事は業者委託するものの、土壌改良等の簡易な作業は地域住民の手作業で実施し、普請活動として展開。

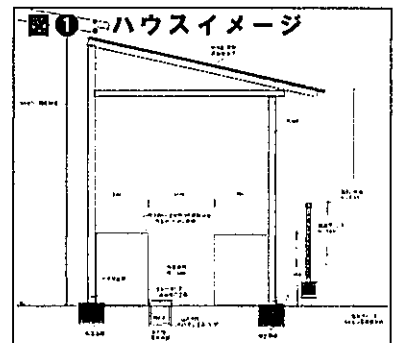
2. 鳴子コミュニティセンター内（隣接）に「簡易園芸ハウス」建設

①**背景・現況**：現状では、花苗や資材等は、コミュニティセンターの軒先（写真①）や各ボランティア個人の庭、さらには新海池にある「花水緑の会」のビニールハウスを間借りしており、育苗及び資器材補完のための場所が不足している。そこで、活動拠点として簡易園芸ハウスを建設するために、現状では雑木林が広がり未利用になっているコミセン裏手（西側、写真②）の土地を活用する。



②**工事内容**：約4坪の木造構造のハウスを建築（図①）。内部は育苗や資器材の保管に便利に使えるように、二段式ひな壇棚（すのこ棚）を設置予定。

③**地域の役割**：設計及び建築工事（上屋・基礎部分）は専門業者が行う。費用を抑えるために内部の棚や小物の設置、資器材の運搬などの補助を鳴子きずなの会やボランティア組織が担う。



※全体工事予定額 約 1,945,125 円（概算）
助成申請予定額 約 1,550,000 円（概算）

<p>審査基準①</p> <p>必要性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公益性・公共性のある提案か ・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする提案か ・地域の身近な課題やニーズを的確に把握しているか ・地域に貢献する施設か ・どこまでを地域として捉えているか
<p>【コミュニティへの参加の「きっかけづくり」「人づくり」のステージとして必要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰にとってもわかりやすく気軽に参加できる「花づくり」は、新住民を含めて地域社会への新たな参加を促すきっかけとして効果的であり、活動を継続させる上で常設の花壇や、育苗のための専用空間といった目にみえるステージが不可欠である。 <p>【学区・NPO・ボランティア・学校・事業所の連携による新たな自治の苗床として必要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しく集まった10名の「ボランティア」、花水緑の会やたすけあい名古屋などの「NPO」、学区の横断的組織である「鳴子きずなの会」、隣接する「小学校」、そしてURや社会福祉協議会の「関係機関」、区役所・土木事務所などの「行政」といった、多様なセクターが「花」を拠り所として連携して地域活動を実践する実験場（苗床）として、当学区のみならず他学区のモデルとしても必要性も高い。 <p>【地域の緑化や都市の環境保全、環境美化の一助として、かつ学びの場として必要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ぐるみの花植え活動を通じて、身近な公共施設の緑化による環境保全、環境美化の一助として貢献するとともに、それらの大切さやノウハウなどを体験を通じて学ぶことができる機会として、必要不可欠な取組であると考えられる。 	
<p>審査基準②</p> <p>独創性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性や資源などを活かした個性豊かな提案か ・創意工夫を凝らした提案か
<p>【コミュニティ再生のための“みんなのお庭（拠り所）”としての位置付け】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学区の中央に位置しながら有効活用されていない公共空間に少し手を加えて、いつでも誰でも気軽に楽しみ参加できる『みんなのお庭』として再生することで、世代や属性を超えた新しい対話を生み出す場を創り出すことができる。 <p>【新たな地域資源として磨き上げて、住民の地域への愛着とプライドを育てる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで地域の資源として意識されていなかった場所を、地域住民が自ら手づくりで磨き上げて地域の新たな宝物とすることで、地域への関心や愛着が高まるとともに、我がまちへのプライド（誇り）が醸成されることが期待される。 <p>【『鳴子団地の花壇づくり（UR）』及び『鳴子北駅の花壇づくり』と連動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建替えが進む鳴子団地内では、自治組織作りと並行してコミュニティガーデンづくりが進められている。さらに、地下鉄鳴子北駅でも、駅関係者に働きかけて既に花壇づくりを進めている。これらが緩やかに線・面としてつながることで、緑地としての機能や景観面において連続性を生まれることを期待している。 	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>	
<p>【あらゆる人を夢中にさせる「市民参加」の仕掛けとしての コミュニティガーデン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■『高齢者』…生きがい、仲間づくり、社会参加、くつろぎの共用空間を提供 ■『子ども達』…環境学習、世代間交流、社会教育の場を提供 ■『新住民』…地域を知り、我がまち意識を育て、出会い・交流を深める機会を提供 ■『行政』…市民との協働による効果的で魅力のある施設管理を実践する場を提供 	

<p>審査基準③</p> <p>実現性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動計画が具体的になっているか ・スケジュールは妥当か ・地域住民が参画して取組んでいく予定はあるか ・自己資金（工事費の5分の1）を用意できる見通しはあるか
<p>第2次選考に向けてのスケジュールをご記入下さい</p>	
<p>24年 7月</p> <p>8月</p> <p>9月</p> <p>10月</p> <p>11月</p> <p>12月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■花咲かボランティアや小中学校、新住民等との連携による花苗づくり・花壇づくりの実践（鳴子中央公園、鳴子北駅周辺）（※ただし、土壌入替や花壇の枠づくりなどはできないために、現状の地形・状況を大きく改変せずに活動する） ■花壇づくりの実践活動と並行して、土木事務所・区役所まちづくり推進室と協議し、計画内容について調整を図る ■「花水緑の会」の助言を受け、花植え活動に参加している地域住民が集まって『コミュニティガーデン&簡易ハウス構想づくりワークショップ』を2～3回程度実施。「鳴子まちづくりフォーラム」（10月下旬予定）や新設する予定のHPでも計画案を公表し、幅広く地域住民から意見を募る。 ■WSをもとに基本計画案をとりまとめてHPで公表し、地域住民を対象にした「工事提案会」を開催。 ■構想案のとりまとめ ■（12～3月）活動の成果と課題を踏まえて、基本設計について検討を始めるとともに、次年度以降の花壇及びハウスの管理・運営体制についても関係団体とともに検討を進めておく。
<p>準備助成金を活用して行う、活動計画をご記入下さい。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ■すでに緑土木事務所や緑区役所、地下鉄・バスセンター等とも話し合いながら、一部の試行的な花壇づくりやボランティアによる花苗づくり、記念植樹などを実施するとともに、今年度は貴センターの助成を受けて花咲かボランティアによる「鳴子きずなの花園」づくりの活動の充実を図る予定である。ハードありきでなく、活動（ソフト）先行型で、ハードの必要性から時間をかけて検討する。 ■現場におけるこれらの実践活動を通じて得られた経験に基づき、花壇の土壌づくりや大きさ、管理可能な広さ・箇所数、設置場所、花苗を育てる園芸ハウスの設計や備品についても具体的に検討する。 ■緑土木事務所や緑区役所、地下鉄・バスセンター等と、実践活動を通じて信頼関係を作るとともに、区役所まちづくり推進室の支援も得ながら、実現可能な構想作りのための調整を進めることが可能であると考える。 <p>※主な活動計画は上記スケジュールに記載のとおり。</p>	
<p>自己資金を用意できる見通し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの当会の活動が評価され、すでに学区年度助成金を得ており、来年度も引き続き助成を得られる見込み。 ・HPや折り込みチラシ（新聞販売店の協力可）により、事業所やNPO等の他団体からの支援寄附金、住民からの寄附金・協力金を募り、自己資金の一部に充当する。

<p>工事を行う場所 の地権者や管理 者等の対応状況</p>	<p>1. 緑区まちづくり推進室 との協議</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 25 年、緑区開設 50 周年記念事業がされる予定。緑文化小劇場で記念式典に区の花「ミヤコワスレ」植樹する計画で、鳴子学区でも連携した取組みを調整中。 <p>2. 緑土木事務所 との協議</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央公園内での 2 回の植樹活動や、鳴子池の花植え活動を通して既に数回協議し、市長名の感謝状も頂いている。 <p>3. 鳴子コミセン との協議</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設管理者である学区連協会長は当会の副代表であり、さらに、施設運営委員長は当会の総務、当会代表はコミセンの役員であることから、協議・調整は十分に可能。
--	---

助成を受けようとする活動項目ごとの支出内訳書(ページが不足する場合は別紙にご記入下さい。)

活動項目	内訳		金額(円)
①計画調整費	専門家謝金	ワークショップコーディネーター等(3回)	30,000
	使用費	会場使用料(3回)	6,000
	消耗品費	ワークショップ備品(事務用品等)購入費	12,200
	印刷製本費	計画案の拡大コピー等	12,000
	通信費	資料送付 郵便代(60人回)	4,800
	交通費	区役所・土木事務所、視察等	16,000
	保険代	ワークショップにおける現地調査・視察等	4,000
	②計画作成費	設計作成費	委託料
	印刷製本費	カラーコピー使用料(計画案の周知)	35,000
③工事提案会	使用費	会場使用料(1回)	2,000
	資料作成費	募集チラシ、配布資料等の カラーコピー使用料	35,000
	消耗品費	事務用品購入費	8,000
計			185,000

<p>公開 審査基準④ 活動実績と 主体性</p>	<ul style="list-style-type: none"> 提案内容につながる地域での活動実績を有しているか 自ら主体となって工事を行い、施設の継続的な維持管理をする意欲と見通しがあるか
<p>■これまでの活動実績・成果</p> <p>下記のような活動に取組み、着実に地域の理解と参加を得てきた。また、活動が評価されて学区連絡協議会の一員になり助成金を得るなど、地域組織との連携も深化。</p> <ul style="list-style-type: none"> 親子や若者、様々な団体が主役となった「鳴子元気サミット(右下写真)」開催 「花植え」や「シンボルツリー植樹」などをイベントとして開催 地域の資源や魅力を題材にして「散策マップ作成」や「フォーラム」を開催 都市再生機構と連携して、鳴子団地のコミュニティ再生にも協力 地域の絆づくりの小さなきっかけとして「ラジオ体操」「座談会」を3年間継続 <p>■「第2ステージ：本格活動期」に向けて花植え活動を推進中！</p> <ul style="list-style-type: none"> 学区の中心的な場所に、地域のコミュニケーションを生み出す“寄合所”としてコミュニティガーデンが常設でできることで、これまで拠点を持たずにイベント中心だった活動が地域住民からも見えやすくなり、新しい参加者を巻き込んで地域に根付く契機になるものと確信している。 既にボランティア 10 名があつまりグループを立ち上げるとともに、鳴子きずなの会でも 28 名のメンバーがおり、花水緑の会や緑社会福祉協議会などの支援・指導も受けて花づくりや花植え活動の実績を作りつつあることから、施設の継続的な維持管理をする意欲と見通しは十分にあり、十分にあるものと考えている。 	